



高峰 愛子(たかみね あいこ)

山崎原子物理研究室  
基礎科学特別研究員

平成16年度～平成18年  
度JRAとして山崎原子物理  
研究室に所属

不安定核を詳しく調べるた  
めの精密分光を目指して、  
あらゆる元素の高速不安  
定核ビームを効率よく低速  
不安定核ビームに変換す  
る装置の開発研究を実施



## 学生の頃から恵まれた環境で研究できる幸運と喜び

### 【JRAに応募した経緯】

私は修士課程から理研で研修生として研究をしていました。その当時から、理研は研究する環境として大学よりずっと恵まれているなど、大学の同級生から聞く話と比べて思っていました。

修士の時に開発していた装置がかなり完成に近づいてきたので、このまま博士課程まで進んでこの研究を進めて自分で開発した装置を使って物理実験をやりたいと思っていましたが、私の場合に最もネックになったのは経済的事情でした。事実、ここまでやって来れたのは誇張でも何でもなくJRAとして採用してもらえて給与をいただけたおかげです。もし採用されていなかったら研究どころではなく大学も辞めていたかもしれません。

### 【JRAとして理研において研究を実施したことにより、大学での研究では得られなかったこと】

平成18年度には、「ロレアル・ユネスコ女性科学者 日本奨励賞」という栄えある賞を記念すべき第1回に頂く事ができましたが、これもひとえに、理研で知識と経験を豊富に蓄積した優秀な研究者の指導の下、世界に誇れる設備を使って、研究支援スタッフにも支えられながら、実に恵まれた環境で研究を行なえているおかげだと思っています。

また、理研に普段いると、他分野の研究者や他大学の学生達や事務の方々などたくさんの人と知り合え、様々な話ができ知見を広めることができ、人生の大きな糧になっていると実感しています。

一研究室の研究スタッフの人数も大学に比べると圧倒的に多く様々な研究者がいるので、色々な点を見習い、自分が将来どのような研究者になりたいかよく考える機会にも恵まれます。

### 【後輩へのメッセージ】

私達の研究グループでも若い学生の参加を毎年期待しつつ、なかなか来てもらえないのですが、どうも話に聞くと、大学から外の研究所に出ていきたくないという学生が多いようです。

大学よりも自由な上に恵まれた環境で研究できるのに、なんて勿体ない事だろうと思います。

もし自分が修士課程の2年に戻ったら、きっとまたJRAに応募することでしょう。

みなさんもJRAとして自分の発想を実現させ、自分の夢に挑戦してみませんか？

